

カリキュラムづくりと総合学習部会

- I 支部研究主題 豊かで創造的なゆとりある教育課程の編成
～総合学習の可能性を今、社会へ発信しよう～

II 主題設定の理由

OECD・PISA の国際学力比較調査の結果から「総合的な学習の時間＝ゆとり＝学力低下」という主張がマスコミなどでなされている。なかには「総合的な学習の時間」が「学力低下」を招いたのではないかと問われたりもした。しかし、本来のねらいは子どもの興味・関心を大切にし、自主的・自立的な学びを大切にするのが目指されたはずである。子ども達の身の回りに存在する様々な課題に目を向けさせ、自ら課題を見つけ、調べ、考え、課題解決を目指したものである。このような「総合学習」の取り組みが、今求められている「思考力」「判断力」「表現力」を育む絶好の機会であったはずである。

一方目を社会に向けると、近年、経済的な格差が広がってきているが、相変わらず物質的な豊かさの方に多くの人々の目が向けられ、心の豊かさが置き去りにされている。また、人間関係は年々希薄になってきている。それらと併せ、家庭や地域、社会の教育力は十分であるとはいえず、子どもたちに自立の遅れ、倫理観の低下、人間関係の脆弱さが見受けられる。

我々は、それらの課題を看過するわけにはいかない。そこで、それらの問題を解決するためにも、道徳や特別活動と同様に、各教科、「総合的な学習の時間」においても、子どもたちの心を豊かに育てることを念頭において、教育課程を編成していかなければならないと考える。ここで我々が考える「心を豊かに育てる」とは、主体的に学ぶことができるようにしたり、学ぶことに自信を持たせたり、友だちと学ぶことのよさに気づかせたり、自分や友だちのよさをとらえることができるようにさせたり、学ぶことをおもしろいと思わせたりすることなどである。

「総合的な学習の時間」が私達の先輩の時代から自主編成の中で進めてきた平和・環境・人権・共生といった実践を時間をかけて行うことができる最良の機会であり、子ども達にじっくり考えさせることができる時間である。新しい指導要領の中で「総合的な学習の時間」が削減されようとしている今こそ「総合的な学習の時間」が、子ども達にとって必要とされる時間であるということを、保護者・地域社会に伝える必要がある。

また、子どもたちの心を豊かに育てるために、仲間の実践に学びながら、常に子どもたちの実態、地域の実態等を考慮し工夫を施し教育課程を編成していきたい。また、子どもたちの学びが豊かなものとなるようにするために、子どもたちの学びの様子に柔軟に対応できるよう教育課程にゆとりを持たせたい。

そこで、本部会のテーマを「豊かで創造的なゆとりある教育課程の編成」として、研究実践に取り組んでいくこととした。

III 研究の内容

- 1 研究の具体的内容と方法

- (1) 実践報告による研究
- (2) 研究授業における課題への取り組みについての検証
- (3) 総合的な学習における評価の研究

2 研究の経過

- 5月12日(水) 研究組織・研究の方向性(研究テーマ, 研究計画, 具体的方法)
- 5月21日(水) 研究計画確認 学習会
- 6月11日(水) 個人研究・実践の発表「なぞの重川探検隊」古屋先生・小野先生
- 6月25日(水) 個人研究・実践の発表「くすのきタイム」新海先生
- 8月6日(水) 夏季学習会 授業案検討「岩手のふしぎ発見」小野先生
- 9月3日(水) 統一授業研 「岩手のふしぎ発見」小野先生
- 9月24日(水) 秋季教研 レポーターの選出・個人研究・実践の発表
- 11月26日(水) 個人研究・実践の発表「いのちの学習」大沢先生
- 1月28日(水) 個人研究・実践の発表「1年生の作文学習について」山縣先生
- 2月18日(水) 冬季教研 研究のまとめ

IV 研究の成果と課題

1 成果として

- (1) 授業者の原案を基に研究部員が共同で、3年生の総合的な学習の授業案をつくった。子どもたちが自身が生活する地域に目を向け、興味・感心を持って調べ、自分達の調べたことを友達・保護者に知らせる活動となるように検討してきた。授業の計画作りから、子ども達の課題づくり、発表の形式や方法などについても、研究会での意見交換を行う中で、学習することができた。
- (2) 地域については、生活科で学習してきている。しかし、生活科と総合的な学習のねらいが異なるので、教師が子ども達に学ばせたいこと、気づかせたいこととねらいをもって、発問をなげかけることによって、子どもたちには生活科で学んだこととは違う観点から地域を捉え学びが広がり、深まることを確かめることができた。
- (3) ねらいの中で「友達のよいところを見つけよう。」と投げかけることにより「やればできるという自信」の自尊感情や、学習意欲の高揚を図ることができた。
- (4) 新学習指導要領や、新教育課程の作成に関わる問題、英語活動に関連して、県教研での課題、いろいろな地域・学校の様子、各自の実践の様子や課題などの情報交換の時間があつたので、多くのことを学べてよかった。

2 課題として(含む次年度の方向性)

- (1) 学校全体でみると「総合的な学習の時間」に関する考え方、捉え方、また取り組みや流れが一定していないのが現状である。
- (2) 英語活動に関して、今後どのようなスタンスで臨んだらよいのかについて思案している。暗中模索の中なので、本部会での情報交換等は大変有効になると考えられる。
- (3) さらに研究の深まりを期待して、部会員の構成拡充を望む。

3 理論研究にもとづいた授業実践について

- (1) 総合的な学習について、指導案を検討するとともに理論研究を進められ、よりよい授業のために研究を深められた。

(部長 鈴木 英仁)